



長野県第三の都市である現在のの上田市は、平成十八年に、旧上田市、旧小県郡丸子町・真田町・武石村が合併し誕生しました。千曲川右岸の旧市街地は、戦国時代に真田氏が築いた上田城を中心とする城下町で、市街地から北に向かうと真田氏発祥の地とされる真田の里（旧真田町）となります。

平成二十八年は、ここ信州上田が舞台となる大河ドラマ真田信繁（幸村）が主人公となる「真田丸」の放送が始まることから地元は活気付いています。今回のご当地自慢は、真田氏にゆかりの地をご紹介します。

◆**上田城（城跡公園）**  
千曲川の分流、尼ヶ淵に面していたので、当時は「尼ヶ淵城」とも呼ばれ、甲斐武田氏の旧臣であった真田昌幸（信繁の父）が一五八三年に築城したものです。昌幸がこの上田城を舞台に二度も徳川軍を撃退した上田合戦は有名です。しかし、関ヶ原の合戦において真田氏が属し



上田城

た西軍が負けたため上田城は破却され、江戸時代には上田藩の藩庁が置かれました。現在は旧二の丸が上田城跡公園となっており、毎年桜の時期になると多くの市民や観光客で賑わう見所となっています。この城跡公園内には真田丸の放送に伴う「大河ドラマ館」がオープンする予定となっています。

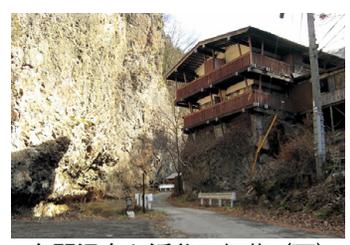
◆**真田氏本城跡**  
旧真田町にある山城の跡であり、真田幸隆により築城されたと伝えられ、上田城が築城されるまで真田氏の本城であったと考えられています。この城は、単体の山城ではなく真田盆地を取り囲む山城群の司令部的存在であったともいわれています。  
◆**山家神社**  
本宮が真田町長地区、奥宮は四阿山（あずまやさん、標高二、三五四）、日本百名山）山頂にあり、古くからこの地域

の守り神として祀られ、千年以上の歴史をもつ神社です。  
平安時代に編纂された三大格式（律令の細則）の一つである延喜式（えんぎしき）の神名帳に名を連ねるほど格式の高い神社です。



山家神社

真田氏も初代幸隆の代より氏神として崇めてきました。真田信綱（幸隆長男）・昌幸の文書等は社宝となっています。  
◆**角間温泉（角間溪谷）**  
角間温泉は上田市真田町角間川上流、日本森林浴の森百選の一つである角間溪谷の中に位置し、周囲は角間山国有林で、切り立った火山岩の断崖絶壁がそそり立ち、特に秋は溪谷全体が赤く染まり、信州有数の紅葉の名所でもありま



角間温泉と溪谷の紅葉（下）

湧出した時点では無色ですが、空気に触れると鉄分が酸化し茶褐色となります。

ここは、真田一族の居城の近くであったことから、真田家の隠し湯ともいわれ、溪谷の双壁は真田十勇士の一人、忍者「猿飛佐助」の修行の場とも言い伝えられています。

◆**真田氏歴史館**  
真田幸隆をはじめとする真田一族の歴史が豊富な資料で紹介されています。館内の展示は、年代に沿って配置されており、真田氏の活躍の歴史がわかりやすく理解することができます。

○**歴史館所在地**  
長野県上田市真田町本原二九八四番地  
一  
○**アクセス**  
JR上田駅・しなの鉄道上田駅よりバス利用約三十五分  
自動車、上信越道上田・菅平インターチェンジより国道一四四号線で四・五キロ（約十五分）  
大河ドラマの放送を機に是非一度真田の里を訪れてみてはいかがでしょうか。